

喜界町

図書館だより 3月号

【通算 第249号】

2017（平成29）年3月1日発行

〒891-6201

喜界町大字赤連字樋口前30番地

TEL：0997-65-0962

FAX：0997-65-2523

e-mail:kikalib@town.kikai.lg.jp

ブックスタート
図書館からの
プレゼント！
（コットンバッグ・絵本）

赤ちゃんと保護者が絵本を介してゆつくり
心ふれあうひとときを持つきっかけづくりの
お手伝い。

「赤ちゃんおはなし会」

日時：平成29年3月3日（金） 午前11:00より

30・10（さんまる・いちまる）運動とは？

先月、懇親会があった。司会者から「さんまる（30）・いちまる（10）」運動を守りましょう、と言う言葉があった。「80・20」は聞いたことがあるが、……？何の運動だろうか？と聞いてみると、お酌をして回ることを禁ずる時間帯だそう。

詳しく調べてみるとその発端となったところは、長野県松本市の職員の懇親会の時に市長が6年前に提案した運動だということだった。乾杯に続く冒頭の30分間とお開きの前の10分間は、各人が自席でしっかり料理を食べる時間ということだ。食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」を減らそうと考えたからだ。いま世界では9人に1人が飢餓に苦しむ一方、年間約13億トンもの食品が食べられずに捨てられている。フランスでは大型スーパーによる食品廃棄が規制され、中国では、完食して皿をピカピカにする「光盤」運動を提唱している。飽食の世の中ではあるが、世界には飢餓で食べたくても食べられない難民や貧困で水を飲んで命を繋いでいる人々を考えると、食品を残さず食べるということは異文化圏でも通じる普遍性があると思う。次代を担う子どもたちにも食べ物の大切さを伝えたい。

《島の伝説》 諸説・俊寛

（先月号より続き） ～～～～

俊寛は謎に包まれた人物である。京都の名刹（めいさつ：名高い寺）法勝寺の執行職に、後白河法皇の信任が厚かった俊寛僧都というのがいて、同土と相語らい、彼の鹿ヶ谷の山荘で平家討伐の謀議（ぼうぎ：計画の相談）をしていたのがばれて、藤原成経・平康頼とともに鬼界島に流された、というくらいまでは確かな史実として受け取っていい。しかし、それ以上のことは多分に伝説の世界になるであろう。

それは、鎌倉時代初期の作とされる平家物語では、俊寛は治承元年に鬼界島に流されて、3年目に37歳で都を思いこがれながら島で没したことになっている。ところが、柳田国男によれば、「俊寛の終焉の伝説地というものは、現在分かっているだけでも十何箇所」（「有王と俊寛僧都 昭和15年、全集7巻所収」）もあるという。熊野信仰を宣伝する高野聖（こうやひじり：高野山から諸国に向いた下級僧）たち（平家物語では俊寛の従者有王《ありおう：俊寛に仕えた僧侶》。鬼界島に俊寛を尋ね、その死後遺骨を高野山に納めて出家）が、それにふさわしい俊寛物語をつくり、諸国を行脚（あんぎや：僧が諸国をめぐって修業すること。）して説いてまわったので、各地に俊寛伝説がばらまかれただろう、というのが柳田氏の推測である。（文責：登山 典壽）【参考文献：喜界島物語 赤嶋昌夫著 広辞苑 岩波書店】

蔵書特別整理休館のお知らせ

喜界町図書館では、蔵書特別整理期間を設け、棚卸し本の点検・整理・修理等を行います。

その期間は、休館させていただきます。ご不便をおかけいたしますが、利用者の皆様には、ご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。

つきましては、2月21日（火）より本の貸出冊数は無制限といたします。

特別整理期間

3月6日（月）～3月15日（水）まで

3月16日（木）より通常開館となります。

～大活字本～

☆ 短夜の髪 上・下
澤田ふじ子著

地道に真つ当な商いをする茶道具屋
「柊屋」を舞台に、京の町に健気に生きる
男女と、骨董に魅せられた人々の喜怒哀楽
を描く。

☆ やまなみ雨はない
倉嶋厚著

小春日和のようよ稲やかな
暮らしを一変させた妻の入院、
そしてあまりに唐突な末期ガンの
宣告。

『♡喜界島♡

ゆかいの文学を楽しむ会』

の会員を募集します。

興味のある方は、年齢を問わずどなたでも
参加いただけますが 先着10名さまとさせていただきます。

申込みは、図書館まで（電話でも可）

※ 第1回、安達征一郎さんの作品

『小さな島の小さな物語』を予定しています。

日時：平成29年4月16日（日）

10:30～12:00

～本が未返却の方へ～

あなたが持っている本を読みたいと思っています。
います。図書館も困っています。

早めの返却をお願いします。